

出穂は、平年より 2 日 以上早い見込み！

令和 7 年 7 月 1 日
長岡農業普及指導センター
稲 作 情 報 No.7

電話 0258-38-2557

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

【コシヒカリ調査ほの生育状況（6 月 30 日現在、管内 24 か所平均）】

草丈：	58 cm	（指標値比 109 % = やや長い）
茎数：	468 本/m ²	（指標値比 97 % = 並）
葉数：	10.2 葉	（指標値差 0.5 葉 = やや早い）
葉色：	38.7	（指標値差 -0.7 = 並）

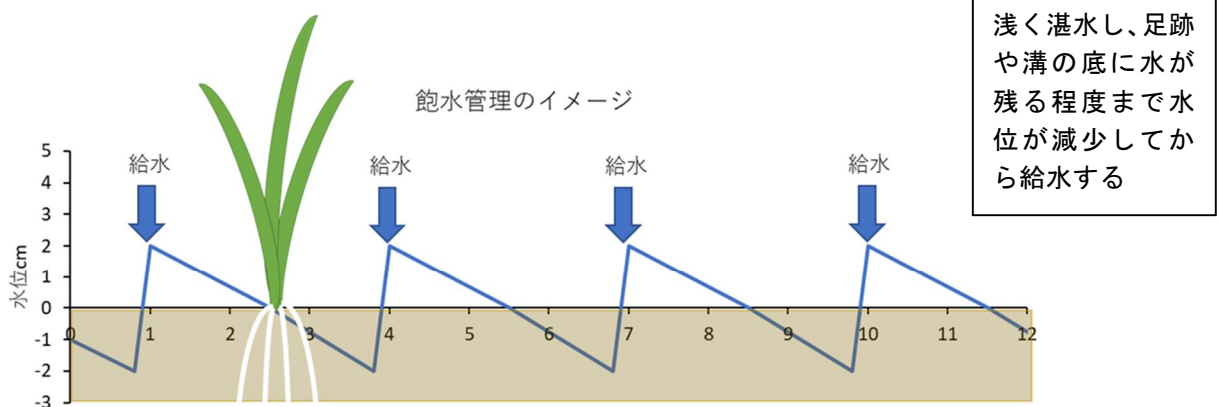
○一部では、茎数過剰のほ場が見られます。出穂の 1 か月前まで中干しを継続し、過剰生育を防ぎましょう。

※ほ場により茎数の差が大きいのので必ず茎数を確認してください。

1 今後の水管理

中干し終了後は、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持のため、徐々に飽水管理^{*}に移行しましょう。なお、1 か月予報（6/26 新潟地方気象台発表）によると 6 月 28 日からの向こう 1 か月は降水量が少ない確率が 50%と予想されており、乾きすぎに注意しましょう。

※理想的な飽水管理（模式図）



2 出穂期予想と穂肥時期のめやす

（1）出穂期は、平年より 2 日以上早い予想です。

1 か月予報（6/26 新潟地方気象台発表）によると、6 月 28 日からの向こう 1 か月は気温が高い確率が 80%と予想されており、更に出穂期が早まる可能性もあるので、穂肥施用が遅れないように注意しましょう。

（2）幼穂形成期や出穂期はほ場間差があり、今後の天候によっても前後します。

各ほ場で幼穂確認を行って出穂期を予想し、穂肥の適期を判断しましょう。

（診断方法は【参考】を参照）

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想と穂肥時期のめやす

(長岡・平場地域) 6月30日現在

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥時期のめやす(月/日) ()内は出穂前日数	
			1回目	2回目
こしいぶき	6/28	7/21	6/28 (23)	7/7 (14)
コシヒカリ	7/9	8/1	7/14～7/17 (18～15)	7/22 (10)
こがねもち	7/3	7/26	7/8～7/11 (18～15)	7/16 (10)

(注) コシヒカリの出穂予想(経営普及課)を基にした予想値である。

早生品種は5月1日～5日稚苗移植を、中生品種は5月10～15日稚苗移植を想定して予想した。

3 穂肥施用のポイント

(1) 分施(基肥+穂肥)の場合

幼穂形成期(幼穂長0.1cmの時期)を確認し、各品種の適期に施用しましょう。

表2 穂肥施用量のめやす(合計施用量を2回に分けて施用する)

品種名	合計施用量 (N kg/10a)	留意点
ゆきん子舞	6	1回目3～4kg/10a、2回目2～3kg/10a がめやす。
こしいぶき	2	砂壤土など地力の低いほ場では1kg/10a程度多めに施用する。
コシヒカリ	2～3	
新之助	2～3	施用量は合計2kg/10aを基本とする。
あきだわら	5～7	1回目施用量は2～3kg/10aとする。
ゆきみらい	5	1回目3kg/10a、2回目2kg/10aがめやす。
わたぼうし	2～3	極端な多肥にならないように注意する。
こがねもち	2～3	合計施用量は1～3kg/10aとする。
五百万石	1～2	1回目に重点を置く。
越淡麗	2	1回目、2回目ともに1kg/10aとする。

○ 必ず、たん水してから施用する。大豆あと等では生育に応じて減肥する。

(2) コシヒカリのポイント

ア【1回目穂肥】～生育診断を実施し時期と量を決定～

- ① 生育診断を行い、適切に穂肥を施用しましょう(診断方法は、【参考】を参照)。
- ② 草丈が長く、葉色が濃い場合は、倒伏防止のため1回目穂肥は慎重に判断しましょう。

イ【2回目穂肥】～必ず施用～

- ① 葉色診断を行い、施用量を判断しましょう(診断方法は、【参考】を参照)。
- ② 生育診断の結果、1回目穂肥を施用できなかった場合においても、2回目穂肥は下位節間の伸長に影響しないため必ず施用しましょう。
- ③ 1回目穂肥が出穂期18日前より遅れた場合は、1回目穂肥を施用した日の7日後をめやすに2回目を施用しましょう。

4 後期栄養確保対策

(1) 出穂期間近で高温が予想された場合 “3回目穂肥を施用する”

表3 【分施体系】高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす(標準的な地力のほ場)※

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期3日前の葉色 SPAD値 31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分 1kg/10a 以下	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値 33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分 1kg/10a	有機100%肥料

(2) 全量基肥肥料栽培ほ場で葉色低下が進んでいる場合 “追加穂肥”

表4 【全量基肥体系】高温が予想される場合の追加穂肥のめやす

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期までの葉色 SPAD値 32～33を下回ると 予想されるとき	出穂期10日前まで 窒素成分 1kg/10a	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期10日前頃の葉色 SPAD値 30以下のとき	出穂期10～5日前頃に 窒素成分 2kg/10a	有機100%肥料

5 病虫害対策

(1) 斑点米カメムシ類

農道・畦畔の雑草は、イネ科雑草が出穂しないよう約3週間間隔で草刈りしましょう。

必要に応じて後期除草剤を使用し、水田内の除草も徹底しましょう。

(水田内の雑草もカメムシの発生源になるため、斑点米の原因となります。)

(2) いもち病

いもち病の多発生地※やいもち病に弱い品種、多肥栽培のほ場では、特に早期発見に努め病斑を見つけ次第防除しましょう。

いまだに補植苗が確認されます。補植苗は、いもち病の伝染源となるため、ただちに除去しましょう。

※いもち病の多発生地＝コシヒカリ BL 普及以前に葉いもち防除で予防粒剤を用いていた地域。

暑い時期になります。農作業中の熱中症に注意しましょう。農作業事故に注意しましょう。

【参考】

1 コシヒカリの1回目の穂肥診断方法【出穂23日前】

(1) 幼穂長を測定する。 ➡ 幼穂形成期・出穂期を予測する。

① ほ場内の平均的な生育の株を3株選ぶ。

② 株の中で長い方から2～3本の茎を株元から引き抜き、幼穂長を測る。

合計6～9茎の幼穂長で出穂前日数を予測する。(表5)

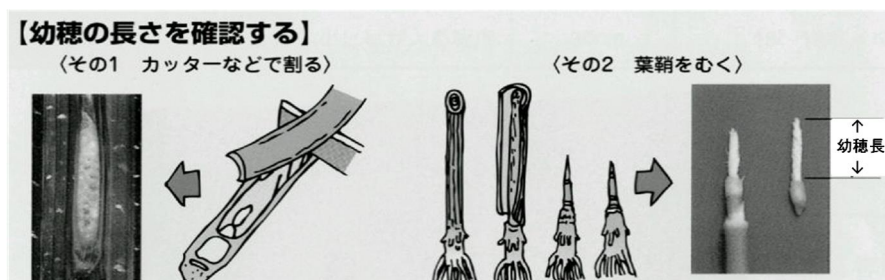


図1 幼穂の確認の仕方

表5
幼穂長と出穂前日数の関係(コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
23日	0.1cm
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

1回目穂肥時期

(2) 幼穂長0.1cmの頃(幼穂形成期)に草丈・茎数・葉色を測定(10株平均)

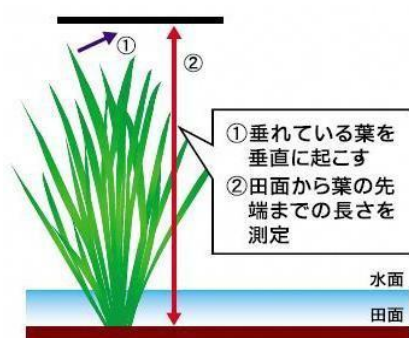


図2 草丈の測り方

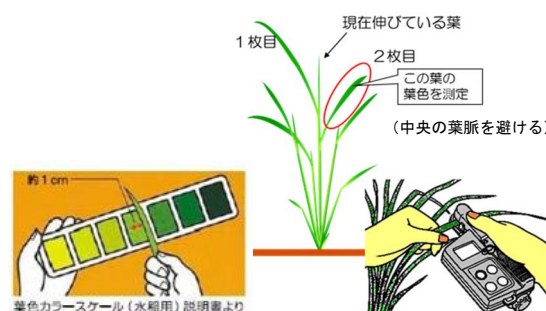


図3 葉色の測り方

(3) 穂肥診断(図4、表6)～草丈と葉色から診断～

【草丈が長く・葉色が濃い場合】→倒伏防止のため、1回目穂肥は控えましょう。

① 「幼穂形成期の生育量」＝「草丈」×

「葉色」を計算する。

(SPADや葉色板がない場合は、各地に設置されている生育調査ほ場の看板を参考に葉色値を推定する。)

② 草丈と葉色を図4にあてはめ、生育量がどの位置か(A～C)を確認する。

有機50%肥料体系では実線——が境界、
化学肥料体系では点線.....が境界。

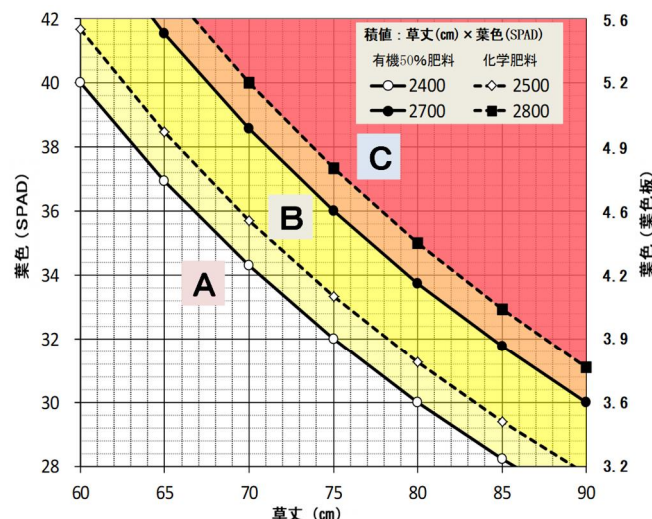


図4 幼穂形成期の生育量(草丈×葉色の値)早見グラフ(図中の曲線は積値〔草丈(cm)×葉色(SPAD)〕を表す)

- ③ 幼穂伸長期間の気象予報を確認し、表6で穂肥の施用時期と施用量を決めましょう。

表6 コシヒカリ 1回目穂肥施用のめやす

幼穂形成期の生育量 [草丈cm × SPAD値]		生育量早見 グラフ内の 位置	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
			低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
有	2400未満	A	○～△ 時期遅め、 量を控えめ	◎ 出穂18日前 に基準量	◎ 出穂18日前に 基準量
化	2500未満				
有	2400～2700	B	×	×	○ 出穂15日前に 基準量
化	2500～2800		施用しない	施用しない	
有	2700以上	C	×	×	×
化	2800以上		施用しない	施用しない	～△施用しない 異常高温の場合は 15日前に基準量

※ 有：有機50%肥料使用、化：化学肥料使用

【水稻栽培指針 R3.2新潟県農林水産部より】

2 コシヒカリの2回目の穂肥量のめやす

(出穂期の目標葉色に誘導するための2回目穂肥診断)

【診断方法】

- ① コシヒカリの2回目穂肥時期（出穂10日前）のSPAD値を測定する
- ② SPAD値を下図の横軸「2回目穂肥時SPAD値」にあてはめる
- ③ 「2回目穂肥時SPAD値」の縦線が「出穂期の目標SPAD値（32～33のいずれか）」の線にぶつかる位置が2回目の穂肥窒素量となる。

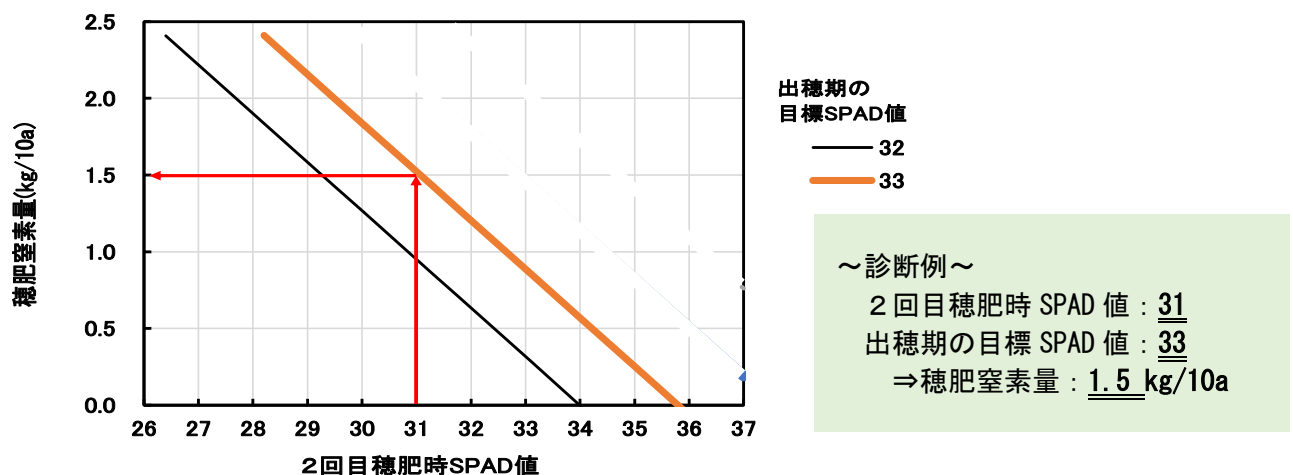


図5 目標とする SPAD 値別の2回目穂肥時の SPAD 値と穂肥窒素量の関係

《データ：新潟県農業総合研究所 R5 年度研究速報より抜粋》

※基肥・穂肥ともに有機質 50%肥料を用いた分施肥体系の試験結果に基づいて作成

※5割減栽培の場合、基肥と窒素の化成窒素の合計が 3.5kg/10a 以内になるよう注意する

定点調査ほ場生育調査結果(令和7年6月30日現在)

品種	地域名	施肥体系	移植日	草丈		茎数		葉数		葉色	
				本年 (cm)	指標比	本年 (本/㎡)	指標比	本年 (葉)	指標差	本年 (SPAD)	指標差
こしいぶき	長岡東	一発	5/6	63	121%	483	97%	10.3	0.1	44.4	3.9
	長岡西		5/4	52	100%	342	68%	10.6	0.4	37.8	-2.7
	越路	一発	5/10	67	129%	520	104%	10.3	0.1	41.9	1.4
	中部	分施	5/6	62	119%	475	95%	10.6	0.4	42.9	2.4
	北部	分施	5/5	55	106%	465	93%	10.6	0.4	42.1	1.6
	北部	分施	5/6	62	119%	417	83%	11.3	1.1	41.4	0.9
	見附	一発		67	129%	483	97%	11.0	0.8	45.8	5.3
			5/6	61	117%	455	91%	10.7	0.5	42.3	1.8
コシヒカリ	長岡東	分施	5/10	60	111%	465	95%	10.1	0.1	38.2	-1.8
	長岡東	分施	5/12	63	117%	434	89%	9.8	-0.2	40.1	0.1
	長岡東	一発	5/10	59	109%	527	108%	10.0	0.0	35.2	-4.8
	長岡西	一発	5/10	55	102%	518	106%	9.5	-0.5	37.6	-2.4
	長岡西	分施	5/14	53	98%	426	87%	9.9	-0.1	37.5	-2.5
	栃尾	分施	5/15	55	102%	489	116%	10.3	1.0	37.9	-2.1
	栃尾	分施	5/12	59	109%	388	92%	10.9	1.6	37.1	-2.9
	越路	一発	5/10	57	110%	370	77%	10.1	0.4	39.7	0.7
	越路	分施	5/19	50	96%	344	72%	10.4	0.7	39.1	0.1
	越路	一発	5/13	63	121%	525	109%	10.3	0.6	39.0	0.0
	中部	一発	5/5	61	117%	459	96%	10.2	0.5	39.8	0.8
	中部	分施	5/11	59	113%	446	93%	9.7	0.0	39.8	0.8
	北部	一発	5/4	63	121%	399	83%	10.2	0.5	40.7	1.7
	北部	分施	5/11	56	108%	441	92%	9.8	0.1	39.4	0.4
	北部	一発	5/5	62	119%	526	110%	11.0	1.3	39.3	0.3
	中之島	一発	5/6	59	113%	408	85%	11.0	1.3	36.3	-2.7
	中之島	分施	5/5	64	123%	415	86%	10.3	0.6	37.3	-1.7
	見附	一発	5/18	43	83%	336	70%	9.1	-0.6	35.2	-3.8
	小国	一発	5/12	61	113%	486	101%	10.8	1.4	38.1	-0.9
	小国	一発	5/12	67	124%	546	114%	10.1	0.7	42.8	3.8
	小国	一発	5/20	55	102%	539	112%	10.2	0.8	36.5	-2.5
	小千谷	一発	5/16	65	120%	516	108%	11.0	1.5	42.5	2.5
	小千谷	一発	5/13	54	100%	509	106%	10.7	1.2	38.1	-1.9
	川口	一発	5/23	44	81%	543	113%	9.3	-0.2	40.5	0.5
			5/11	58	109%	461	97%	10.2	0.5	38.7	-0.7
			5/7	58	109%	440	91%	10.1	0.3	38.4	-0.9
			5/14	58	107%	502	108%	10.4	1.0	39.2	-0.4

※長岡地域、越路地域、三島中部地域、三島北部地域、中之島地域、見附地域の6地域を平場、残りの4地域を中山間地に分類。

※指標値は、こしいぶき5月5日、コシヒカリ5月10日移植を想定。